



01 学長挨拶／

02 特集1／

タイ王国バンコクへの海外研修を実施
令和5年度卒業研究優秀論文発表会を
開催しました！

03 学部 慢性看護実習(2年生後期)

3年次の領域別実習での学び

04 地域連携・教育センター

05 特集2／

JICA課題別研修
「地域保健向上のための保健人材強化」
4年ぶりの対面研修を実施

07 大学院

08 教員紹介

09 図書館

10 情報公開

第26号
2023.10▶2024.3

JICA課題別研修 13名の研修生が来日



ひとりを看る目、その目を世界へ



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School



学長挨拶

マインドフルな学び舎を

新しい年を迎えた日に能登半島地震が起こり、尊い生命が失われ、多くの方が被災をされました。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。断続的な余震や厳寒の状況が続いており、多くの皆様が不安な日々を送っておられます。被災された皆様にとって安全・安寧のときが持てるよう、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

現地で救命・救助、支援にあたられている方々に深く敬意を表します。本学においては、日本赤十字社の一員として全学をあげて支援に取り組んでおります。学生が主体的に企画した募金活動は、学内ならびに学外において輪を広げています。引き続き息長く復興支援に取り組んでまいります。

世界に目を向けると、イスラエル軍による攻撃が続くパレスチナ自治区ガザでの死者は、2万人を超えています。そして、ウクライナではロシアによる侵攻による激しい戦闘が続いています。厳しい寒さ、劣悪な衣食住環境はこの戦火を生き延びている人々の尊いのちに脅威をもたらしています。

我々は、まさに危機の時代を生きているといえます。危機の時代を生きぬく保健・医療・福祉の新たな在り方が必要とされています。Covid-19のパンデミックや戦禍による健康危機に対し、世界中の保健・医療・福祉分野において、人々の安全と幸福を維持しながら、前例のない健康危機に効果的に対応するための課題に継続的に取り組んでいます。前例のない課題が次々に起こる中で、今、予測不可能な事態に効果的に対処するような組織が求められています。予測不可能な事態に効果的に対処できる組織の在り方として、近年、高信頼性組織 high-reliability organizations(HROs)という概念・原則、その有用性が着目されています。信頼性の高い組織とは、原子力制御室や空母の飛行甲板のような組織であり、非常に複雑で、動的で、相互依存的で、エラーに寛容なコンテキストで稼働しているにもかかわらず、一貫してエラーのないパフォーマンスが特徴とされています。高信頼性組織の根底にある理論は、組織の従事者が小さな問題を探して報告する「集合的マインドフルネス」の文化を構築することで、組織にリスクをもたらしたり個人に害を及ぼしたりする前に、システムが問題に対処するのに役立つというものです。想定外の事態を見慣れたものとして常態化して制御不能になる前に、当事者の視点から組織の人々が的確に判断し、行動することが危機の時代の保健・医療・福祉にはまさに求められているのです。

これからの保健・医療・福祉の分野で活躍する専門職を育成するには、「集合的マインドフルネス」の文化に根差す学び舎が必須です。「失敗へこだわる」「単純に解釈しない」「オペレーションに敏感になる」「レジリエンスに全力でとり組む」「専門性を重んじる」などの基本的姿勢を身に着け、職種や職位にかかわらず状況に応じて変化する「適切な」専門性を引き出し、想定外の状況でも、組織全体が機能マヒに陥らない柔軟な対応を行うことができる組織や人材育成が必要です。そのためには、率直なコミュニケーションを通じ、最新の状況認識・全体像をつくることのできるマインドフルな組織文化の醸成が不可欠です。

ここ数年来すすめてきた自校教育がめざす目標の一つには、マインドフルな組織文化の醸成が含まれています。学長杯で学年を超えて実践力を競う経験は、学年や学生と教職員という枠を超えて、個々の意見を尊重し、集結することで思ってもみなかった力がみなぎる体験となったと思います。また、昨年末に「日本赤十字社 イスラエル・ガザ人道危機 赤十字オンライン活動報告会～武力衝突の激化から2カ月～」を視聴し、ロウソクの灯に平和の祈りを捧げるときは、ともに、「今、私たちにできること、自分の考えを行動にしてみる」という勇気が湧かせ、大切な人々を想うことで自身の安寧と世界へのつながりを感じ、平和の大切さを改めて感じる機会となったでしょう。

(本内容は、本学ホームページ「2023年度学長室便りNo.7」に掲載したものです)

学長 小松 浩子(2024年3月時点)

令和6年3月31日付をもちまして、小松 浩子は学長を退任いたします。



特集1

タイ王国バンコクへの海外研修を実施

1年の選択科目「異文化間コミュニケーション」の授業の一環として、2024年2月18日(日)から23日(金)までの5泊6日の日程で、参加者は14名(女子13名・男子1名)、柳井教授と高瀬教授の2名が同行しました。海外における異文化体験が主な目的ではありますが、その他に交流協定を結んでいる5つの大学の内のタイ赤十字看護大学での交流も同時に行いました。

主な視察先は、①タイ赤十字看護大学 ②タイ赤十字社 ③王立記念病院 ④国立血液センター ⑤セニゼンズ老人ホーム等、および観光先は、⑥スネークファーム ⑦サイアム博物館 ⑧バンコクの王宮等でした。この中でも4日目には、タイ赤十字看護大学の先生方を前にして「柳井教授と高瀬教授による研究紹介」、1年から4年まで集ったホールに於いて「タイの学生による民族音楽と舞踊」、そして本学からは4つのグループによる異文化理解のためのプレゼンテーションを英語で行うというイベントも実施されました。学生は、異文化理解と外国語の習得の重要性を痛感したようです。

2024年「異文化間コミュニケーション」でのバンコク海外研修

時 間	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目
	02/18/2024 (日曜日)	02/19/2024 (月曜日)	02/20/2024 (火曜日)	02/21/2024 (水曜日)	02/22/2024 (木曜日)	02/23/2024 (金曜日)
09:00-12:00	スワンナプーム空港 ●タイ赤十字看護大学の先生と学生との挨拶等	集合8:45 開始9:00 ●タイ赤十字看護大学での歓迎会 & ●キャンパスツアー	集合10:15 開始10:30 ●スネークファーム(QSMI)、タイ赤十字社	集合9:45 開始10:00 ●救援・地域保健局 タイ赤十字社	集合8:15 開始8:30 ●国立血液センター タイ赤十字社 ●老人ホーム(セニゼンズ)	スワンナプーム空港
12:00-13:00		昼食				
13:00-16:30		●チュラロンコン王記念病院 (タイの最高学府チュラロンコン大学医学部附属の大学病院)	●サイアム博物館 (タイ国の成立の歴史を学ぶことができる) ●グランドパレスとエメラルド仏院 (バンコクの王宮や敷地等の見学)	●柳井教授と高瀬教授の研究紹介 ●タイの学生と日本の学生によるプレゼンテーション (15:30-17:00)	●サラ・チャレームクルン・シアター ●コンパフォーマンステショピング	



令和5年度卒業研究優秀論文発表会を開催しました！

令和5年12月26日に卒業研究の優秀論文表彰と発表会を開催しました。4年生の4月から始まる卒業研究は、指導教員とともにテーマを決め、研究計画書を作成し卒業論文に仕上げるという4年間の総まとめの科目です。

発表会では、最優秀賞1名と優秀賞4名の学生による発表が行われました。今年度は、実習を通して得た多岐にわたる疑問が、リサーチクエストンとして研究につながっており、それぞれの発表は独自の視点から研究を進め、その結果がまとめられたものばかりでした。

看護師になってからも研究は続きます。就職したあともこの経験を基に、皆さんの研究活動がますます発展していくことが期待されます。

賞	氏 名	題 目
最優秀	一川 いぶき	ICU 日記の重症患者家族の PICS-F の予防と医療満足度の効果：システマティックレビューおよびメタ分析
優 秀	本多 千紘	看護学生の実習満足度の評価に影響する臨地実習体験
優 秀	廣瀬 美海	COVID-19 流行下で生後 0~4 ヶ月の乳児を育児した経験がある母親の育児情報の入手手段とニーズに関する研究
優 秀	焼山 天音	看護学生の災害に対する意識の変化と維持・向上要因について
優 秀	佐藤 千尋	アドバンス・ケア・プランニングに関する慢性疾患専門看護師の認識



論文発表の様子



小川学部長から表彰



受賞者で集合写真

慢性看護実習(2年生後期)

1月下旬から2月上旬に実施した慢性看護実習では、徹底した感染症対策の下、4年ぶりに新型コロナウイルス感染症流行前とほぼ同様の臨地実習が実現しました。この学年にとっては初めて1週間を超える臨地実習であり緊張が高い様子でしたが、臨床環境に慣れるにつれ、個別性に応じた看護の実践を目指し、病みの軌跡の理解や看護実践に取り組むことができました。

ある施設での臨地実習最終日の学生代表による看護部長への挨拶の一部をご紹介します。

「今回の実習で2人の患者さんを受け持ちました。信頼関係を築くことが大変でしたが、ケアを行うことで会話が生まれ少しずつ距離を縮められたと思います。ありがとうと言ってもらえた時は、やってよかったと喜びを感じました。患者さんは私たちの学びのために受け入れてくださり、感謝の気持ちで一杯です。また、看護師さんにはお忙しい中にアドバイスをいただき、悩んでいるときは一緒に考えてくださり、おかげでよりよい計画・実践につながることができました。今回学んだことを糧に、さらに知識・技術を身につけ、次の実習でよりよい実践・関わりができるように頑張っていきます。ありがとうございました。」(学部2年 入江 桃子)

改めて全人的アセスメントの重要性を実感したり、長期的視点を持って対象を理解することの意義を自分の言葉で説明できた学生もいました。各自がこの実習での達成感を大事に、次の課題に取り組んでいけるよう期待しています。



福岡赤十字病院での実習の振り返り



福岡赤十字病院 佐藤看護部長へ挨拶

3年次の領域別実習での学び

領域別実習は、初めて経験する長期の臨地実習で実習が始まるまではとても不安でした。実習中は大変なこともありましたが、さまざまな患者さんとのかわりを通して、多くの学びを得ることができた3か月間だったと思います。

今回初めて精神疾患を有する患者さんや意思表示が難しい患者さんを受け持たせていただきました。最初は話しかけてもあまり表情が変わらない患者さんとのかわりに戸惑いました。そのような時、教員に「自分の思いを言葉で伝えてみる」となどを教えていただき、自分のかかわり方を振り返るきっかけとなりました。そこで、患者さんが初めて名前を呼んでくださり嬉しかったことや力になりたいと思っていることを言葉で伝えていくうちに、患者さんから話しかけてくださる機会が増え、徐々に援助的関係を築けたように感じました。また、相手と同じ目の高さで「見る」などユマニチュードの技術を実践しましたが、コミュニケーションがうまくいかないこともありました。しかし、指導者さんから「自分の中で当たり前と思っていることは、無意識のうちにできていなくても気づけない」というお話を聞き、普段の会話のなかでやっているようで実はできていなかったことに気づきました。意識して自分から視線をつかみにいくことで徐々にコミュニケーションが取れるようになりました。

実習を通し、相手に伝えようとする姿勢や技術を持つことや患者さんが安心して支援を受けるためにはコミュニケーションが大切であることを学びました。また、うまくいかないときは、自分のなかの当たり前を振り返ってみることも大切だと思いました。

多くの学びや気づきの機会をくださった患者さん、指導者さんなどすべての方に感謝の気持ちを忘れず、この経験を今後に生かしていきたいです。目の前の患者さんにとって必要なことを様々な視点から考えられる人になれるように頑張ります。

学部3年 黒崎 名花



学内での実習の振り返り

地域連携・教育センター

クロスカレッジ2023後期

「ストレスを和らげるためのセルフケアセミナー」

講師:メンタルヘルス領域 高瀬 理恵子 助教

参加者はまず、エゴグラムを用いた自己分析で、自分の強みや弱みを知る演習を行いました。次に、認知療法を用いて自分自身の思考の傾向に気づいてバランスの良い考え方をすることで気分が変化する体験をしました。自分自身が日頃感じている気持ちや思考を立ち止まって考え、それを文字に表し可視化する作業は慣れないものだったかもしれませんが、みなさん真剣に取り組んでおられ、今後の生活での活用に結びついたようでした。

『「エンド・オブ・ライフ」について考えましょう ～あなたの人生を振り返るものに～』

講師:慢性看護領域 中村 光江 教授

まず、近年エンド・オブ・ライフが注目されている背景について、具体例を挙げて説明があり、そのあと、4～5名のグループで、余命があと半年だとしたら何を大事にしたいかについて話し合いました。

学生ボランティアが入ったグループでは、若者とシニア世代との考えの違いがあり、学生たちは人生の先輩方から多くのことを学ばせていただいたようです。また、参加者からは、「エンディングノートを作ろうと思う」といったご感想をいただきました。エンド・オブ・ライフで大切なことは、自分自身がどのように生きていきたいのかを考えておくこと。そしてそれを大切な人と繰り返し話すこと、医療者も含めて話し合うことも大切であることが分かりました。



講義の様子

4年ぶりに地域の方参加型 アスティ祭を開催！

健康応援企画 測定コーナー・手洗いチェック 血中酸素飽和度(SOP2)の測定

学生たちは、アスティ祭に訪れた地域住民に、身長や体重、BMI、血圧、SOP2の測定を行い、結果をお伝えしながら保健指導を行うなど、健康づくりのサポートをさせ手洗いコーナーでは、手洗いチェッカーを用いて洗い直しを可視化。正しい手洗い方法の実践を行いました。



市民の方に説明・実践する学生ボランティア

むなかた子ども大学

宗像市主催のイベントに参画

『これでみんなもLittle看護師』コースを開催！

参加された小学生1～3年生の25名がLittle看護師として、午前は「赤ちゃんのお世話」、午後は「傷の手当て・車椅子の移送」を体験しました。患者さんの看護に必要な物品をグループで協力して集める「初めてのおつかい」では、看護している場面を想像して何が必要か考えたり、話し合ったりして必要な物品全てを集めることができていました。

参加した学生ボランティアの感想:

初めてサポーターとして参加をして、子どもたちと触れ合いながら楽しく取り組むことができ、分かりやすいようにゆっくり簡単な言葉で説明することや、一人ひとりに合わせて対応するなど、子どもとのコミュニケーションを学べたいい機会になりました。



小学生と一緒に弁当を食べて
仲が深まりました



心臓の音聞こえるかな？

看護職者向け公開講座

サテライト公開講座「災害とフォレンジック看護 ～SANE看護師の活動を通して～」

講師:リベラルアーツ・専門基礎領域 柳井 圭子 教授

フォレンジック看護の発展の経緯、フォレンジック看護の特徴、災害とフォレンジック看護について、日本フォレンジック看護学会の理事を務める柳井教授が講演しました。

フォレンジック看護は、暴力・虐待その他、法に触れる事象に遭遇したことで生じ

た健康問題に専門的に対応する新たな看護領域です。なかでも性暴力被害者に看護の知識と技術を用いて対応するSANE(性暴力対応看護師)は、司法関係者にも高い評価を得ています。性犯罪を社会的に問題とされる今、被害者支援、犯罪抑止に看護の活躍が期待されています。またフォレンジック看護は、理不尽な死に遭遇した方とその家族へのケアにも当たります。その専門的な知見が遠隔死亡診断や事故調査に活用されています。このようなフォレンジック看護は、災害の犠牲者ケア、また暴力リスクの高い被災者(性暴力、DV等)等の対応とケアに資するものです。

サテライト会場には、福岡赤十字病院の看護師の方々に多くご参加いただき、オンラインでも複数の赤十字施設の方にご参加いただきました。



講演の様子

「地域保健向上のための保健人材」

2月15日より世界12か国から13名の外国の方を研修員としてお迎えし、JICA研修を実施しました。

この研修の目的は「地域保健向上のための保健人材強化」で、各国の中央政府(保健省)の保健人材担当部局、地方(州・県・初日には、まず開講式が本学のオーヴァルホールに於いて開催され、その後各研修員からジョブレポートのプレゼンテーションを行いました。

また、研修講義だけでなく、福岡県内・宗像市内の施設見学や訪問、そして本学の学生との交流や日本文化体験も行いました。

■ 日本文化体験

宗像地域国際交流連絡協議会の協力をいただき、休日には袴や着物の着付けや茶道などの日本文化に触れる体験をしました。

初めての着物で少し緊張しましたが、様々の模様や色の着物を着て、髪も結ってもらい、とてもうれしそうでした。

赤間宿にある萩尾邸にて、着物を着てお茶会の雰囲気も満喫しました。

さらに宗像市にある歴史ある酒造所を見学し、試飲させていただきました。

ひな人形7段飾りやさがり雛を見て、日本の文化や風習に触れた一日でした。



茶道体験の様子



エイサーをみんなで踊りました



【研修にご協力いただいた施設、講師一覧】(順不同)

宗像市子ども子育て部子ども家庭センター
宗像市健康福祉部健康課
福岡県看護協会
福岡県保健医療介護部医療指導課
宗像医師会病院
宗像医師会在宅医療連携拠点事業室
医療法人コールメディカルクリニック福岡
福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所
宗像市赤間西コミュニティ運営協議会
鞍手町地域包括センター
みやこ町立やまびこ診療所
福岡赤十字病院
元九州大学名誉教授 尾形 裕也 氏
国際医療福祉大学 中田 光紀 氏

研修員出身国



セネガル



コートジボワール



ウクライナ



ルワンダ



ザンビア



パキスタン



ネパール



スリランカ



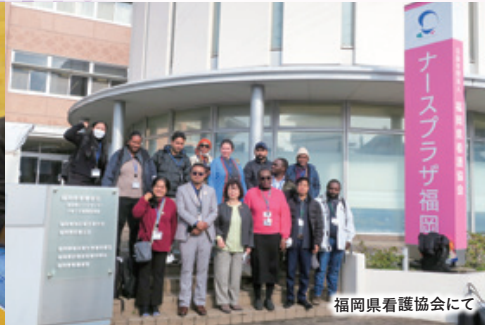
カンボジア

強化」4年ぶりの対面研修を実施

郡等)の保健担当局、保健人材教育機関の方々がJICA研修員として参加されました。
が行われました。2月15日から3月1日までの2週間、日本の医療保健制度や看護人材育成確保等様々な研修を学内外で実施



たまご学級に参加しました



福岡県看護協会にて



日本赤十字社福岡県支部救護倉庫を見学



書道や折り紙体験、輪投げや射的の遊びを通して学生と交流を深めました



ウェルカムランチの様子



学生が折り紙をレクチャー



日本文化体験で着物を着ました

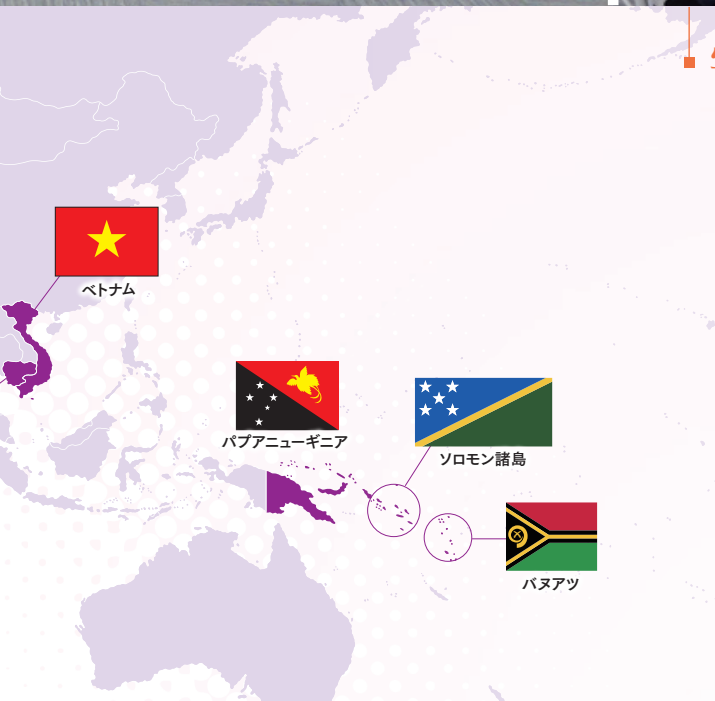
学生交流会

研修員の皆さんに日本文化を体験していただけるように、学生が中心となって企画・運営を行いました。

体育館では結まーるのサークルが英語で演技を紹介しながら披露し、研修生に簡単な振り付けを伝え、最後には参加者全員で太鼓や音楽に合わせて交流を深めました。

英語でのコミュニケーションに不安を感じていた学生も交流会が始まると一緒に習字や折り紙をするなど笑顔で会話する姿が見られ、会場はとても盛り上がりました。また、日本のお菓子を知ってもらいたいと考え、射的・輪投げコーナーには景品を準備しました。それぞれに気になるお菓子をゲットして楽しんでいただくことができましたと思います。研修員の方からは「とても楽しかった!」「ありがとう!」といった言葉をいただきとても嬉しかったです。

学生も日本文化を楽しみながら、研修員の皆さんと素敵な時間を過ごすことが出来ました。



大学院で看護管理を学んで得たもの

私は、12年間の臨床経験の中で管理を学ぶ機会がなく、「管理とはなんだろう?」という疑問を解決するために、看護管理学を専攻しました。大学院では、経験・知識豊かな先生方より講義を受け、ディスカッションやプレゼンテーションを行いました。そこでは、自分の視野の狭さを感じ、新たな学びや課題を見つけることができました。また、管理を学び繰り返し論理的思考を行う中で、今まで気にしていなかった言葉ひとつひとつの意味を丁寧に捉えるようになり、現場でスタッフや患者さんの発する言葉が持つ意味を考えるようになりました。その気づきが、良い看護の提供や職場環境の改善に役立てば良いなと考えています。学業と仕事、子育ての両立は大変ですが、信頼できる先生方や同期、職場の上司や同僚・家族の支えがあり、大変さ以上の素晴らしい経験をさせて頂いています。この経験を現場に活かしていきたいと考えています。



基盤看護学領域 看護管理学専攻 修士課程1年 秋本 沙弥佳

修士論文発表会を終えて

修士課程1年目は毎週のように顔を合わせていた教育・研究者コースや助産コース、CNSコースの同級生でしたが、2年目になると随分会う機会が減りました。研究のプロセスは道なき道を進んでいるような感覚でしたが、きっとみんなも実習や研究を頑張っているだろうと自分を鼓舞し、邁進してきました。修士論文発表会では久しぶりに同級生と顔を合わせられたことが嬉しく、また他領域さながらの興味深い研究ばかりで発表に聞き入っていました。特に3年間という長期履修の期間にじっくり取り組んでこられた研究は、分析や考察が奥深く、臨床の看護に結び付く質の高い教育や管理の視点を学ぶことができました。論文発表は緊張しましたが、長期履修の同級生も発表を聞きに来てくれ勇気が出ました。論文発表を終えた今は安堵の気持ちと研究にご協力いただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、研究成果の公表に向けて取り組んでいきたいと思っています。



生涯発達看護学領域 老年看護学専攻 修士課程2年 森田 愛子

大学院での学び

私は、大学病院で看護管理者として勤務しながら2021年4月に大学院修士課程に入学しました。看護師一人ひとりが育つ組織を創るために看護管理者として為すべきことを考えたいと思ったことがきっかけです。今まで、看護管理者として、多くのスタッフ育成に努めてきました。人材育成に関する文献を読み、より良い方法を模索するものの、何が良い関わりだったのか、あるいは何がまずかったのかが曖昧なままで、自分の中で何かが不足していると感じていました。「経験だけに頼る自己流の人材育成から何とか脱却したい、系統的に看護教育学を学びたい。」という思いが強くなり、大学院で学ぶことを決めました。講義では、レポート作成や、プレゼンテーション、ディスカッションが多く設けられており、脳細胞をフル活動させながら、物事を多角的に捉えることや、自己の考えを言語化する力が鍛えられたと感じています。また、理論を学ぶだけではなく、それを看護現場の実践にどう繋げ、活かしていくのかを考えられたことは新たな発見でした。特別研究では、以前よりずっと気になっていた2年目看護師の育成について探求したいと思い始めましたが、問いを明らかにしていく過程は想像以上に時間がかかり大変でした。問いの答えは自分自身で出すしかなく、その作業は時に苦しいものでもありました。しかし、その過程を経たからこそ、自身の考える力や創造力が磨かれ、成長できたのだと感じています。



入学時は3年間で修了できることの想像すらできない日々でしたが、先生方の温かいご指導があり乗り越えることができました。今後は、大学院で修得した思考を臨床現場での教育に還元できるよう、尽力したいと思っています。

基盤看護学領域 看護教育学専攻 吉郷 悦子

教員紹介

令和5年度に着任した教員のうち、 2名の教員をご紹介します！

老年・慢性看護 高比来 ひとみ先生 インタビュー

Q 先生のご専門分野について教えてください

A 修士号を修得した大学院で放射線と災害の専門分野に関わるようになりました。現在は放射線に携わる医療職の職業被ばくについて研究しています。放射線は見えない、臭わない、聞こえない、触れられない、という特質のために不安や怖さにつながりやすいですが、現在の医療には欠かせないものでもあります。放射線を患者さんも、医療者も、安心・安全に利用できる研究を今後も続けていきます。

Q 本学へ来られて、大学・学生の印象はどのようなものですか

A 入職当初から学生・教職員の皆さんが挨拶してくれることが本当に嬉しかったです。皆さんからの挨拶で本学に受け入れてもらえている気持ちになりました。また、お昼休みにキャンパスプラザで昼食休憩をしている学生さんをみるとほのぼのとした気分になります。講義の合間の束の間を楽しんでください。昨年1年間を過ごす中で学長杯や遥碧祭など大学全体で学生も教職員も参加する学業以外の大学行事があり、私自身も楽しませていただきました。私は教員として未熟ですが、学生さんと一緒に楽しい時



間を過ごせたらと思っています。これからどうぞよろしくをお願いします。

Q 教員、または看護職を目指されたきっかけは何でしょうか

A 看護師になるきっかけは小学生の頃に読んだ折原みとの「時の輝き」という小説です。看護学生が同世代の患者さんと出会い、看護師として成長する話です。2人のキュンキュンする話もありながら看護師の現実や魅力を知りました。その後、私自身が看護師になると理想と現実の差は大きく、何度も失敗を経験しましたが、上司や先輩がかけてくれた言葉や指導にとても恵まれ、諦めずに、グレずに看護師を続けられました。今は、私が学生さんにとって看護職を続けていく小さなきっかけの助けになればと思っています。

高比来先生の略歴

長崎県長崎市出身。看護師として9年間国立国際医療研究センターに勤務。2015～2017年JICAボランティアとしてインドの准看護師養成学校で活動。2017～2023長崎県の看護系大学で補助教員として勤務。2020年長崎大学大学院にて修士号を修得、現在博士課程在籍。2023年4月より本学老年看護助教として入職し現在に至る。

ヘルスプロモーション・在宅看護 大森 健太郎先生 インタビュー

Q 先生のご専門分野について教えてください

A まだ専門分野といえる段階に全くないですが、4月から福岡県立大学の修士課程に進学予定です。「在宅での看取りの推進」を大きなテーマとして、人生の最終段階における意思決定支援、中でも代理決定者となってしまう家族に対する支援、意思決定能力の強化方法について、研究を行いたいと考えています。自身や周囲の「死」が関係する話題を普段することは少ないと思います。しかし、それが差し迫った状況では逆に話づらい。そういったジレンマを緩和するために、こういったアプローチが有効なのか…。ご助言をお待ちしております。

Q 本学へ来られて、大学・学生の印象はどのようなものですか

A よく挨拶をしてくれる、礼儀正しい学生が多いなあというのが第一印象でした。また、講義や実習等に参加する中で、プレゼンテーション能力や、グループワークの運営が上手であることには大変驚きました。ある程度任せておいても、自分たちで話し合うことができ、発表も上手である。私自身があがり症であるため、素直に尊敬できる点であると感じました。皆さんの学ぼうとする姿勢、能力には大変刺激を受けています。教員になったばかりで日々ワクワク



ておりますが、大学生活を謳歌する皆さんに負けられないよう、精進していきたいと思います。

Q 教員、または看護職を目指されたきっかけは何でしょうか

A 看護師を志したきっかけは、中学生の時に通学中に目の前で目撃した交通事故でした。若い女性が小学生をはね、膝に裂傷(詳細は省きますね)を負わせてしまいました。震えながら泣き叫ぶ子供に過呼吸気味となった運転者…そこにいた全員がどうすることもできずパニックになっていました。そこにたまたま駆け付けた女性の「私看護師です」の一言で、現場が安心感に包まれ、「職業

を名乗るだけで場の雰囲気を変えることができる看護師ってすごい!」と感じ、そこで志す職業が決まりました。もしそこで最初に到着していたのが医師であつたら、医師を志していたと思うくらい、私にとっては大きな出来事でした。新卒採用試験の際に「作り話じゃないですか(笑)」と言われたのはいい思い出です。

大森先生の略歴

福岡県北九州市出身。広島大学医学部保健学科を卒業後、広島市の2次救急病院の循環器内科で4年勤務。地元である福岡に戻り、療養型病院で回復期リハビリテーション病棟、神経難病病棟で10年勤務した後、縁あって本学へ入職し、現在に至ります。

全国大学ビブリオバトルに参加しました

第14回全国大学ビブリオバトルへの出場を目指し、本学で予選会を開催しました。コロナ禍を経て、3年ぶりの対面開催です。7/12、8/3、11/7にそれぞれ1回戦を行い、勝ち上がった3名で11/10に決勝戦を行いました。発表者は学部1年生3名、2年生3名、3年生4名の計10名、観覧者には学外からも参加いただきました。



第1戦の発表者



第2戦の発表者



第3戦の発表者

予選会の紹介本

1年	内堀 茜	『方舟』夕木春央著、講談社、2022.
1年	大川原 萌	『僕はもう憑かれたよ』七尾与史著、宝島社、2015.
1年	梶本 知沙	『ごっこ』紗倉まな著、講談社、2023.
2年	山口 紅梨	『舟を編む』三浦しをん著、光文社、2011.
2年	山田 真綸	『ライオンのおやつ』小川糸著、ポプラ社、2019.
2年	吉海 直貴	『むらさきのスカートの女』今村夏子著、朝日新聞出版、2022.
3年	小川 舞桜	『ラーメンwalker: 北海道2021』KADOKAWA、2020.
3年	草野 真帆	『獣の奏者』上橋菜穂子著、講談社文庫、2009-.
3年	藤田ほの香	『感覚過敏の僕を感じる世界』加藤路瑛著、日本実業出版社、2022. ★チャンプ本
3年	柳澤 旭徳	『図解・地下鉄の科学：トンネル構造から車両のしくみまで』川辺謙一著、講談社、2011.

本学決勝戦でチャンプ本を獲得した3年生の藤田ほの香さんは、11/18に福岡女子短期大学で開催された九州Aブロック地区予選に参加しました。藤田さんは、他大学の4名と激戦の末、準チャンプ本に選ばれました。惜しくも決勝にはすすめませんでしたが、参加後は「他大学の方と本を通して交流の場となったり、プレゼンの幅が広がったりと、とても楽しく良い経験になりました」と語ってくれました。

本学では、今後も、学内で小規模のビブリオバトルを開催していく予定です。学生の皆さん、お気に入りの本を持って参加してみませんか。

ビブリオバトルとは？

「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーとした、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。全国大学ビブリオバトルは、大学生・大学院生を対象に2010年から開催されており、発表者は、全国各地で開催される予選会・ブロック決勝を経て、本戦へすすみます。本学は2012年から毎年参加しており、これまでに5名の学生が本戦にすすみました。



決勝戦の発表者



予選会の様子



地区決勝

ビブリオバトルのやり方



【ビブリオバトル公式サイト】
<https://www.bibliobattle.jp/>

【全国大学ビブリオバトル2023】
<https://zenkoku.bibliobattle.jp/>

国家試験合格率

本学の看護師、保健師、助産師国家試験の合格率は以下のとおりです。

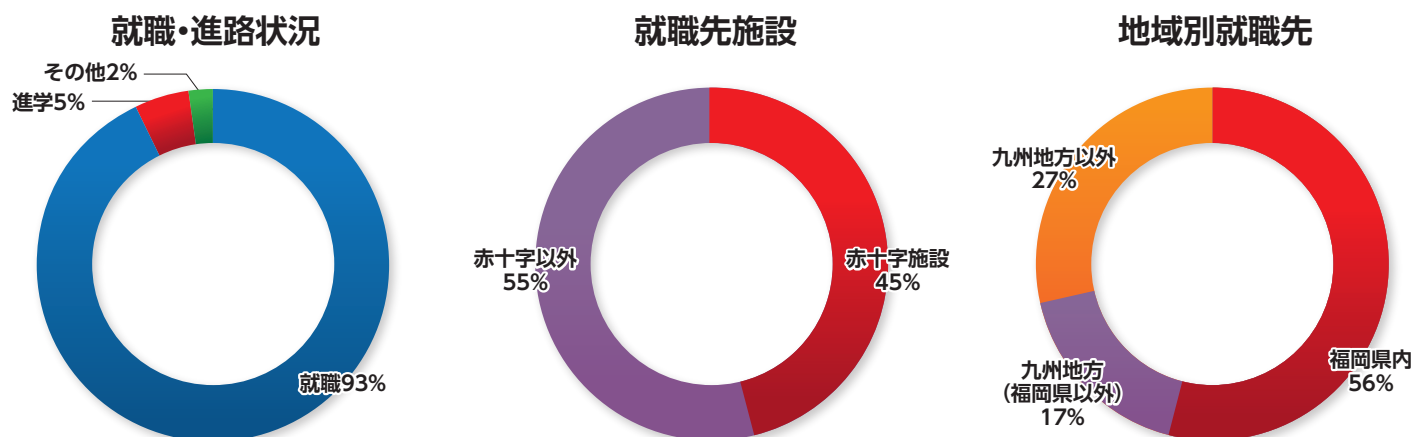
看護師国家試験等合格率(令和2年度～令和5年度)

試験種別	令和5年度			令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
看護師国家試験	93	92	98.9%	118	114	96.6%	99	99	100.0%	120	115	95.8%
保健師国家試験	18	18	100.0%	16	16	100.0%	18	17	94.4%	15	14	93.3%
助産師国家試験(大学院)	4	4	100.0%	5	4	80.0%	4	4	100.0%	5	5	100.0%

※このデータは新卒のみを記載しています。

令和5年度卒業生就職・進路状況(2月29日時点)

今年度の卒業生の就職・進路状況は以下のとおりです。



就職・進学希望者の進路決定率は開学以来**100%**を継続しています。

令和5年度卒業生の具体的な就職実績は下記のとおりです。

赤十字施設

福岡赤十字病院、唐津赤十字病院、日本赤十字社長崎原爆病院、熊本赤十字病院、大分赤十字病院、鹿児島赤十字病院、沖縄赤十字病院、大阪赤十字病院、京都第一赤十字病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、横浜市立みなと赤十字病院、武蔵野赤十字病院、大森赤十字病院

その他の医療施設

小倉記念病院、飯塚病院、九州中央病院、浜の町病院、福岡市立こども病院、福岡東医療センター、北九州市立八幡病院、九州医療センター、九州大学病院、小倉医療センター、済生会二日市病院、産業医科大学病院、新古賀病院、新小倉病院、聖マリア病院、千早病院、博愛会病院、白十字病院、原三信病院、福岡新水巻病院、福岡大学病院、宗像水光会総合病院、福岡県庁、那珂川市、宮若市、長崎県庁、大分大学医学部附属病院、山口大学医学部附属病院、関西医科大学付属病院、大阪医科薬科大学付属病院、大阪大学医学部付属病院、りんくう総合医療センター、神奈川県立子ども医療センター、板橋中央総合病院、国立がん研究センター、東京医科歯科大学病院、千葉大学医学部附属病院

進学先

日本赤十字九州国際看護大学大学院、福岡水巻看護助産学校、聖路加国際大学大学院



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって
一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けら
れました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生
・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの
願いが込められています。

題字：吉田 歩さん（2014年度 看護学部卒業生）／福岡県・柏陵高校出身

寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。寄付
金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、本
学ホームページでご確認をお願いいたします。



令和5年度卒業式・学位授与式 2024.3.12



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地
Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

大学ホームページ
<http://www.jrckicn.ac.jp/>



大学公式YouTube
http://www.youtube.com/@jrckicn_youtube



Instagram



本広報誌「一碧」は
Web版でもご覧いただけます。

